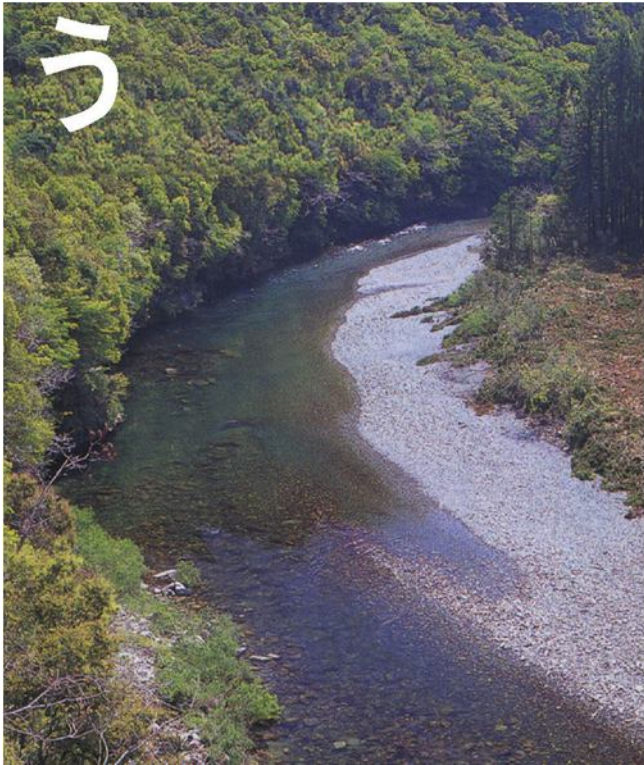


「教科書の川の写真から学ぶ(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

教科書や教師が意図したねらいと、子どもたちが発した疑問から生まれる学習問題に、くいちがいがあるというのは、珍しいことではない。「教師の願い」と「子どもの思い」は、一致しないことが多いものなのだ。しかし、今回の教科書の川の写真から出てきた、子どもたちの疑問には驚かされた。

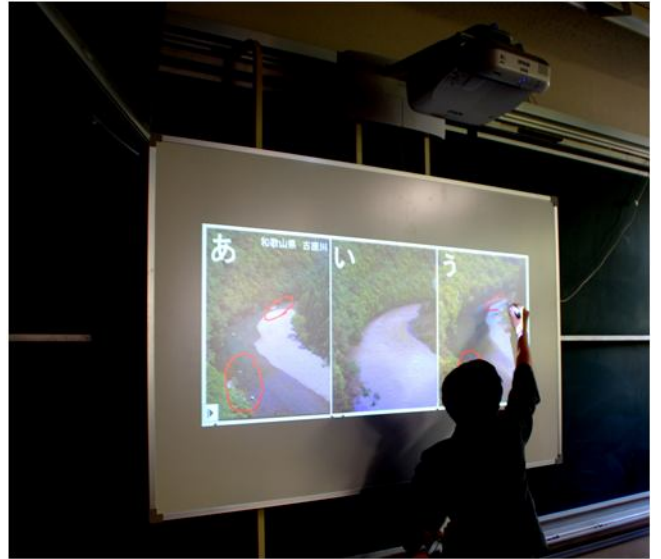


これは、導入3枚目の「減水時」の写真である。私は固定観念で、教科書の写真なのだから「上が上流」と勝手に決めていた。しかし、「先生、この写真の川、どっちに流れてるんですか?」と聞かれて、「は?」と思った。そういわれると、即答できなかつた。

もう一度写真をよく見てみたが、見れば見るほど、どちがら上流かわからなくなつた。私は、3枚の写真を比較させて、写真の川がどちらの向きに流れているのか、論議させてみることにした。



あるクラスで、写真をよく見たあとに、流れる向きがどっちか聞いたところ、見事に半々に分かれた。こうなると面白い。こうした論議をさせる場合、明確な論拠(科学的な証拠)を出すことが大切だ。自説の説明には、電子黒板が大いに役立った。



理科室の電子黒板は、なかなかのグレモノで、黒板の前面を、プロジェクターごとスライドできる。PC、書画カメラ(実物投影機)、DVD(「デーブイデー」と読む)、「犬神家の一族」「ベン・ハー」「ドボチョン一家」などを映せる。その画面上に、直接電子ペンで書けるので、こうした論議には最適なのだ。論議---というより論争に近い---は面白かつた。どちらの流れ方の子どもも、論拠は共通してつた。

- ・岩に当たってできた泡や波の方向。
- ・波の形状。たとえば、“) ” 型の右側が下流。
- ・石の大きさに判断する。大きいほうが下流。
*これはこの範囲では判定不可。
- ・水没した草の枝が流れている方向。
- ・倒木の先端のしなり方。
- ・「う」の河原に入江のような切れ込み。

この単元は、たくさんの学習問題があるので、私は、早く先に進めたかつたのだが、この問題で延々と論議を続けている。さて、果たして結論は? (つづく)